

製品名: ABL1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21327**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:123kD;Observed MW:123kD

抗原情報

遺伝子名	ABL1 ABL JTK7
別名	c-Abl;ABL1;ABL;JTK7;Tyrosine-protein kinase ABL1;Abelson murine leukemia viral oncogene homolog 1;Abelson tyrosine-protein kinase 1;Proto-oncogene c-Abl;p150;
遺伝子 ID	25
SwissProt ID	P00519
免疫原	ヒト ABL1 の組み換えタンパク質

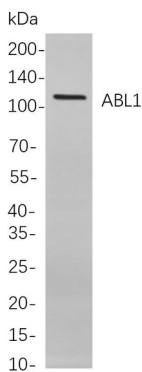
背景

細胞局在：細胞質 > 細胞骨格。核。14-3-3 タンパク質および核膜との相互作用により細胞質内に隔離される。ミリスチル化された c-ABL タンパク質は核に存在することが報告されている。この遺伝子は、細胞分裂、接着、分化、ストレス応答など、様々な細胞プロセスに関与するタンパク質チロシンキナーゼをコードするプロトオンコゲンである。このタンパク質の活性は SH3 ドメインによって負に制御されており、このドメインをコードする領域を欠失するとがん遺伝子となる。普遍的に発現するこのタンパク質は、CDC2 を介したリン酸化によって制御される DNA 結合活性を有しており、細胞周期機能への関与を示唆している。この遺伝子は、様々な白血病において様々な転座パートナー遺伝子と融合していることが見出されており、特に t(9;22)転座は、ブレイクポイントクラスター領域遺伝子 (BCR; MIM:151410) の 5'末端との融合を引き起こします。この遺伝子の選択的スプライシングにより、2つの転写バリエーションが生じ、これらのバリエーションは、残りの共通エクソンにスプライシングされる、選択的な第 1 エクソンを含みます。[pr]

研究分野

-

画像データ



Hela 細胞ライセートのウェスタンブロット解析

ABL1 ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。